

流行ニュース：

## &lt;鳥インフルエンザ A (H5N1) 型&gt;

中国衛生部は広西壮族自治区南部地域、隣接する湖南省（アヒル）、湖北省（鶏）の集団感染を確認した。今のところ、これらのヒトへの感染については確認されていない。

タイ厚生省は3例目の感染で、2例目の死亡例であるタイ北部スコータイ県の6歳の少年が1月27日に死亡したことを確認した。

ベトナムでは、1月24日ホーチミン市の8歳の少女と13歳の少年の感染を追加確認した。少年は1月22日に死亡し、少女は重態である。

## \* 現状の概要：

現在、ヒトへの感染確認例はタイとベトナムの2ヶ国で、アジアの家禽への流行と同時期に生じている。2003年12月中旬以来、家禽における集団発生は韓国、ベトナム、日本、タイ、カンボジアで確認されているが、他国でも家禽の集団死亡例があり、現在調査中である。

ベトナムでは、61地域で家禽への感染が確認され、2003年12月23日以来、約290万羽の家禽が感染死もしくは廃棄された。

WHOは、感染又はその疑いのある家禽を即急に処分する事がヒトへの発症の防止、新インフルエンザウイルスへの変異・流行を食い止める有効な予防手段であるとしている。現在のところ、ヒトからヒトへの感染の証拠はない。

全地域の感染者（家禽及びヒト）のウイルスサンプルはWHO研究所のネットワークに送られ、ワクチン製造に活用される。

## \* 食品の安全性：

家禽間で感染を認めている地域においては、生きた家禽を直接消費者に供給してはならない。数ヶ国では貿易が規制されているが、WHOは流行地域の家禽加工品（冷蔵肉、冷凍肉、それらの産物）と卵が公衆衛生上にリスクをもたらすと結論づけていない。家禽産物を取り扱う際には手洗い、汚染の防止、調理（70度）などの衛生行動が重要であることが強調されている。

今週の話題：

## &lt;専門家で構成された戦略諮問グループ（SAGE）からの予防接種、ワクチン、生物学的製剤部門（IVB）への勧告&gt;

SAGEは1999年、WHO事務局によって予防接種、ワクチン、生物学的製剤部門（IVB）の研究に関する指導のために設立された。2003年7月7-9日ジェネーブで第5回年次総会が開催され、以下の4つの集会において勧告と提案がなされた。

## 1. 総会

総会では、ワクチン研究フォーラム（年次フォーラム開催の決定）報告、ワクチン予防接種世界同盟（GAVI）とWHOの役割、2003ポリオ根絶戦略の成果と2004-2008年新ポリオ根絶戦略計画、予防接種安全策優先プロジェクト運営委員会の報告が行われた。

## 2. 新制度（改革）

WHO規格設定とWHO製品開発活動の共同推進、ワクチンの品質管理、ワクチン製品に関する冊子の準備、疫学とフィールド研究の指導委員会、髄膜炎 - 三価Nm A/C/W135 PS ワクチンの影響評価、WHOとGAVIの開発促進と導入計画（ADIPs）、髄膜炎ワクチンプロジェクトの最新情報、HIVワクチン開発（第3段階試験の教訓）、麻疹ワクチンの新接種体制の6プロジェクトが新たに導入された。

## 3. 予防接種システム

## \* 予防接種財政：何をすべきか？

国際予防接種計画（NIPs）の財政的な負担に対処するために、財源の有効利用と分かち合い、他国の資源移譲、ワクチンの供与と技術移転を推奨している。

## \* 定期予防接種を強化しているポリオ感染のない国における現場スタッフの指導実績：

SAGEは定期予防接種の向上に際して生じる障害を克服する能力を育成するため、「現場スタッフの指導をあらゆる地域で進める」方針を支持している。また、妥当な人的資源の利用は新世紀（21世紀）の開発目標の到達のために重要であることを認め、WHOとGAVIの活動を奨励している。

## \* 重症急性呼吸器症候群（SARS）：抑制するためのワクチンが必要か？

WHOは資金の利用、ウイルス株とその他標本材料の貯蔵所の確保、ワクチン作製のためのウイルス株の特徴、ワクチン製造の監視、SARSの免疫反応と疾病の経過の理解、SARSワクチンの免疫力測定のための標準測定系の研究推進、動物試験の促進と標準化などを提言した。

## \* 駆虫治療薬と予防接種事業の統合の機会：

予防接種と統合する駆虫薬治療が子供の免疫を高め、ビタミンA吸収作用と成長を促す可能性があることが示された。SAGEはこの公衆衛生計画に注釈を加え、その潜在的価値を認めている。しかし、血清

変換における駆虫薬療法の効果に関する証拠（ブースター効果）明らかにされていないために、今後立証していく必要がある。

\* ワクチン導入促進（AVI）優先計画：

SAGE は事務局によって提案された活動の見直し、B 型肝炎ワクチンの相対的不足とその保証の必要性、データの不足、アフリカの Hib ワクチン接種不足について注目した。さらに、この優先計画のための財源支援の必要性、AVI 優先計画の持続的な推進力を支持し、新しいワクチン導入に関する指導と経験を広めて、国の予防接種計画に組み込んで確実に具体化する必要性を言及した。

\* アジアにおける b 型インフルエンザ菌（Hib）の導入における次のステップ：

WHO は情報収集とアジアに Hib ワクチン導入勧告のための会議計画を発表した。SAGE は評価調書が最初に確認されることを条件にこの計画の遂行を支持している。

\* 国家レベルのワクチン管理状態の向上：

ワクチンの悪い管理状態、不十分な中央保管設備、凍結不可ワクチンの報告の増加や高消費性の高価な新型ワクチンなどの幾つかの重大問題に直面していることが指摘された。これに対して、WHO は効果的ワクチン管理に向けての取り扱い訓練、良い貯蔵法と配布ガイドラインなどを提示している。

\* ワクチンの安全性に関する世界諮問委員会（GACVS）報告：

1999 年以降 GACVS 結論の公表と審議結果記録を提供するウェブサイト設立を含む GACVS の活動が報告された。SAGE は GACVS の 3 会議における決議内容を支持し、GACVS が WHO とあらゆるワクチンの擁護から独立して機能することに注目している。

4. 加速する疾病制圧（コントロール）

\* 麻疹（はしか）：2003 年度世界保健総会の決議 麻疹による死亡率低下への決議：

麻疹による死亡の 98% が GAVI に支援された国家で起きていることから、SAGE は国家レベルでの麻疹死亡率低下維持のために可能な限りの GAVI との協力体制を推進している。

\* ポリオ根絶（PE）：今日までの進展と 2004-2008 年での戦略方針：

SAGE は 2004-2008 年間の PE の活動に新世紀（21 世紀）の開発目標の設定、定期予防接種を強化するための利用と PE インフラの利用と拡大、ポリオ死亡率減少の活動強化、急性弛緩性麻痺監視モデルと同じアプローチを要する疾病の監視強化、米国政府と関連機関による疫病抑制と他の公衆衛生分野における PE 手段と計画利用を奨励している。

\* ポリオ根絶：不活性化ポリオウイルスワクチン（IPV）の規制：

IPV は野生型ポリオウイルスの感染を抑制しており、経口ポリオワクチン（OPV）または循環ワクチンの逆効果による麻痺性灰白髄炎の危険性を最小限に留めるために、30 カ国は IPV による免疫を既に導入している。SAGE は「OPV 使用国の IPV 導入」に対する WHO 草案の有効性を認め、それに含まれている WHO 勧告を推奨している。

\* ビタミン A：取り組みの最新情報：

ビタミン A 欠乏は失明と母子死亡の増加の危険性がある。小児と妊娠年齢女性の年間約 80 万人の死亡例はビタミン A 欠乏が原因である。母子に対するビタミン A の補充はビタミン A 欠乏問題を認識している国々では次第に行われるようになって来ており、ポリオ全国ワクチン摂取日（NIDs）に一致させたビタミン A の配給は非常に有効な戦略である。

\* 黄熱病（YF）：制圧と予防：

SAGE は子供の YF ワクチン定期予防接種とキャンペーンの実施との統合を行うと共に、YF ワクチンの安全性の問題への取り組み、内臓性疾患の調査の強化、YF ウイルスのリスクの評価、HIV 陽性者の YF ワクチン安全性に関する評価を推奨している。

\* 妊婦と新生児の破傷風（MNT）：2003 年 3 月特別諮問委員会の最新情報：

論議された主要な問題点は母子の破傷風の根絶を正当化する WHO の方法論の適切性にあった。勧告会議は評価調査の質を含む方法論を受け入れ、方法を果たす手順を助言した。

\* アメリカ、ヨーロッパ地域における風疹の抑制と先天性風疹症候群（CRS）の予防：

SAGE は欧州地域における風疹予防の対象が女性に絞られていることから、男性が女性への感染源となる危機が高まっている事実について言及し、男性を取り急ぎ風疹予防対象と見なすように勧告している。

（大原彰子、多淵芳樹、田村由美）